

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 御幸小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	75人	算数	75人	理科	75人
第5学年	国語	65人	算数	65人	理科	65人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

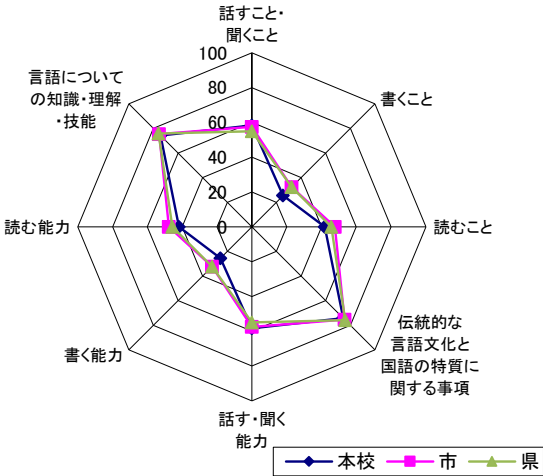
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	58.3	57.5	54.9
	書くこと	25.4	32.3	32.3
	読むこと	41.9	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.2	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	58.3	57.5	54.9
	書く能力	25.4	32.3	32.3
	読む能力	41.9	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	74.2	75.3	75.8



★指導の工夫と改善

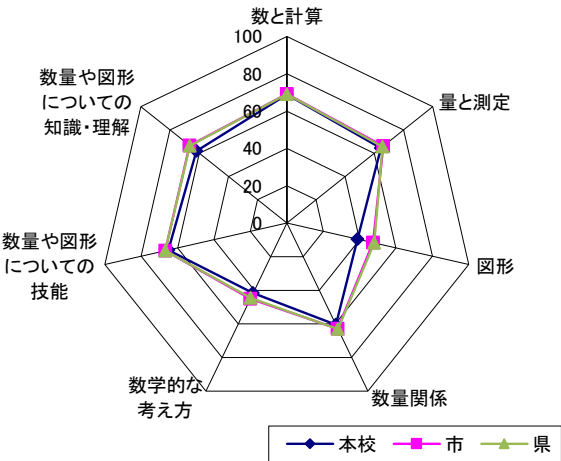
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は58.3%で、市平均より0.8ポイント、県平均より3.4ポイント高くなっている。 ●話し合いにおける意見の理由を考える設問では、選択肢があるものは正答率が高いが、作文しなければならないものは、正答率が低い。	・話し合い活動では、役割を交替しながら司会の立場に立ったり、聞き手になったりして、話す・聞く力を育成していく。 ・自分の考えを述べるとき、理由を明らかにして話す習慣を身に付けさせていく。
書くこと	●平均正答率は25.4%で、市や県より6.9ポイント低くなっている。 ●報告レポートを作成する設問では、読み手に分かりやすいレポートの書き方が十分理解されていないこと、調べて分かったことを要点をまとめて書くことができていない点が見られた。	・社会や総合的な学習の時間など、他教科においても調べたことを文章にまとめる機会を増やし、その都度書き方の手順を示しながら書く力が身に付くようにする。
読むこと	●平均正答率は、41.9%と市平均より5.8ポイント、県平均より3.8ポイント低い。 ●説明文の設問では、段落の内容を理解した上で大きなまとまりに分けることが課題として見られた。また、文学作品の内容を理解して解答する設問では、本文から正しく書きぬくことができない。	・朝の学習で取り組んでいる5分読解ドリルを継続させながら、説明文であれば、段落ごとの要点を読み取る力、段落間の関係を理解する力、最後に作者が読者に伝えたかったことを読み取る力を育てる。 ・文学作品については、日頃の読書活動を通して、登場人物の心情を読み取る力を育成する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は、他の領域と比べて高い。市や県の平均正答率とほぼ同じである。本校が取り組んでいるチャレンジテストに向けての日々の学習の成果であると思われる。 ●ローマ字に関する設問の正答率は低く、ローマ字の正しい読み・書きに課題がある。	・漢字スキルを活用して、漢字の正しい読み書きの定着を図っていく。 ・ローマ字は、総合的な学習におけるのパソコンを使って学習など日常生活の中で使う機会を増やし、定着を図る。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.9	69.2	69.1
	量と測定	64.5	66.1	65.6
	図形	38.8	47.4	48.0
	数量関係	60.5	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	41.7	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	65.1	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	62.0	66.6	66.5



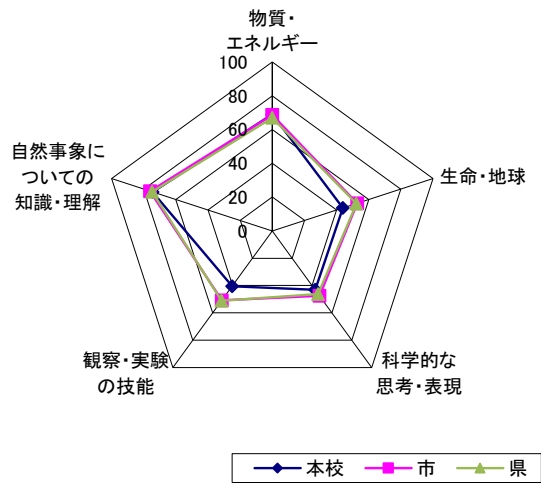
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は、68.9%で市や県平均を0.2～0.3ポイントとわずかに下回っている。 ●設問別に見ると、3けた×2けたのかけ算と□を使った式の意味を考える問題につまずきが見られた。 ○たし算・ひき算に関しては、80%の正答率で、本校が取り組んでいる授業始めの計算ストレッチの効果が見られていると思われる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業始めに行っている計算練習の継続を継続していき、たし算ひき算、簡単なかけ算の計算力を高める。3けた×2けたのかけ算については、正しい筆算の仕方について習熟を図る。 ・式の意味を正しく理解させると共に式と数直線を結び付けられる思考力を培っていく。
量と測定	●平均正答率は、64.5%で市平均より1.6ポイント、県平均より1.1ポイント低くなっている。 ●設問別に見ると、時刻と時間が市平均よりやや低い。決められた時刻に目的地に着くために何時発の電車に乗るか、考える問題では、つまずきが多く見られた。目的地までの条件と関連付けて時間を計算することが課題である。	・時刻は理解できるが、時間の感覚が身に付いていない児童が多い。場を設定した問題を数多く解いたり、校外学習等で時間を計算しながら行動する体験を数多く積んでいくことで、定着を図る。
図形	●平均正答率は、38.8%で市や県の平均より10ポイント低い。 ●円と球・三角形に関しての設問で、円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形は何か、また、球の直径を活用して箱の長さを計算する問題へのつまずきが見られた。	・円や三角形において、半径や辺の長さを認識しながら作図したり、球については、具体物を用いて授業を展開することで、図形の性質を捉えさせていく。
数量関係	●平均正答率は、60.5%で市平均より2.4ポイント、県平均より2.6ポイント低くなっている。 ●特に乗り物の料金表と乗る人数との組み合わせを考える設問と3つの数のかけ算の式の意味や余りが出るわり算の処理問題等の正答率がかなり低かった。	・日常生活に密着した問題を数多く取り上げ、数の組み合わせを思考させる場を設定し、思考力を育成していく。 ・日頃より、かけ算やわり算の式を立てたとき、問題場面に合わせた式の意味を読みとる訓練を重ねることで、数の処理する力を育てる。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	69.0	68.6	66.9
	生命・地球	43.9	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	43.1	47.4	46.2
	観察・実験の技能	40.5	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	74.5	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は、69.0%と市の平均と同等、また、県の平均より2.1ポイント上回った。「物と重さ」では、各設問での正答率が80%を超え、県、市の平均値を上回っている。「光の性質、磁石の性質」についても3ポイント以上県、市の平均を上回っている。 ●「電気の通り道」では平均正答率が50%で県、市の平均値を5ポイント以上下回っている。ショート回路を問う設問では、正答率が平均10%。回路について思考させる設問では、平均正答率が40%台で理解、定着度は低いと考えられる。	・平均正答率が高かった内容については、練習問題や発展的な学習を通してさらに理解を深めるとともに、自分なりの明確な問題意識、課題意識を基に問題と仮説を立て、それらを解決、分析するような学習に取り組ませ、考える力や、学力の定着を図る。 ・「電気の通り道」など、電気に関する分野は、中学校での更なる発展的な内容に続く重要な分野であるため、基本的な回路の成り立ちや、電流の流れなどの復習を通して基礎的な事項の理解を図るとともに練習問題を活用し学力の定着を図る。
生命・地球	○領域等の平均正答率は全体的に県平均、市の平均を下回っているものの、昆虫についての設問では正答率が高く、理解度は高いと言える。 ●太陽の動きと影の関係については理解が低いことが分かる。設問の平均正答率は30%以下、グラフを読み取ることが苦手であることを示している。「太陽と地面の様子」では、温度計の使い方についての設問の平均正答率が低く、技能の定着が図れていない。文章で説明する設問では、考えの論拠を示して文章を書くことが苦手で、平均正答率は10%台である。	・平均正答率が高かった内容については、練習問題等でさらなる学力の定着を図る。 ・「太陽と地面の様子」では、予想を立てて観察し、結果から考察する学習を児童からの疑問を基に行うことで、児童の積極的な学びへとつなげる。 ・観察や実験の際には道具を使う活動を十分に保障し習熟へとつなげる。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学びの基礎力

●「家で計画を立てて勉強している」の肯定回答が、県平均を13ポイント下回っている。漢字や計算練習等、日々声かけをして自主学習が習慣化するようにしていく。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定回答が82.7%で、県平均より2ポイント下回るが、よい結果である。引き続き、児童が興味・関心をもって学習に取り組めるよう思考の時間を十分確保した授業を展開していく。

社会的実践力

○「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決している」の肯定回答が、県平均を12ポイント上回っている。課題解決への意欲を継続させながら、自力で解決できたときの成就感を味わわせたい。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の肯定回答が、県平均より2ポイント下がるが、89.2%と高い。「話す・聞く」の基本的な姿勢が身に付いているので、引き続き話合いの場を多く取り入れ、『友達の考えと自分の考えを比較しながら聞く力』を高めていく。

学級力

●「グループなどの話合いに自分から進んで参加している」の肯定回答が県平均より2.5ポイント下回っている。話合いにおける進行記録・発表等の役割を分担したり、グループでの話合いには一人一人の考えが大切であることを自覚させたりして活動を活性化させる。

○「学校での役割や係りの仕事に責任をもって取り組んでいる」の肯定回答が94.6%で県平均を4ポイント上回っている。今後も学級の一員としてみんなのために仕事ができる児童を育てていく。

家庭学習力

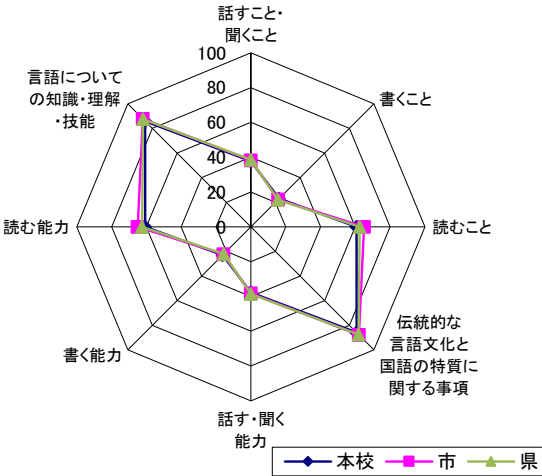
●「家で学校の授業の復習をしている」の肯定回答が、43.4%で県平均を19ポイント下回っている。家庭における決められた学習時間を守り、復習をする習慣の定着を図る。

●「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定回答が49.3%で県平均を12ポイント下回っている。自主的学習内容について具体的に例を示したり、家庭に協力を呼びかけたりして定着を図る。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	37.8	38.3	38.5
	書くこと	22.9	22.3	21.9
	読むこと	60.7	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	85.8	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	37.8	38.3	38.5
	書く能力	22.9	22.3	21.9
	読む能力	60.7	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	85.8	87.8	87.5



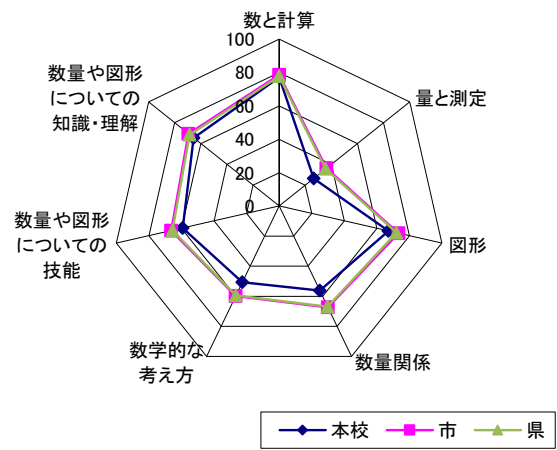
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●領域の平均正答率は37.8%で、県や市の平均とほぼ同じか、やや低い結果となった。 ●司会者の役割を理解しながら話し合いを進行したり、考えの共通点や相違点を整理しながら聞いたりする設問では、適切な言葉を探し出して記述できる児童から、無解答、重要な語句を落として書いている、など個人差の多い解答が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・国語の時間だけでなく、他教科や活動の場面での話し合いにおいても話し手・聞き手・司会者など様々な役割を経験させ、その役割における務めを理解する機会を多く設けていく。
書くこと	○領域の平均正答率は22.9%で、領域の中で唯一、県や市の平均正答率をわずかに上回った。 ●規定内の文字数で解答に当たる部分を抜き書きする設問に、誤答や無回答が多く見られた。	・授業の中で自由に答えるだけでなく、文章に書かれている言葉で答える練習を繰り返す。また、抜き出した文章中の言葉を精選し、より短く、設問に合うように簡潔に書き表す方法を機会をとらえて指導していく。
読むこと	●領域の平均正答率は60.7%で、県や市の平均より2.5～5ポイント低い結果となった。 ○文学作品の内容理解の設問では、叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読むものや、文章の細かい点に注意して読み、言葉を引用するもので、県や市と同じか少し上回る平均正答率のものもあった。	・朝の時間に取り組んでいるドリルを活用し、読み取りの仕方や設問に対する解答の見つけ方のスキルを身に付けられるよう、指導していく。 ・授業で学んだ読み取りの力を、個人の読みに生かしていけるよう「キーワード」や「伏線」「仕掛け」などの言葉を学習の中で使って支援していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●領域の平均正答率は85.8%で、県や市の平均より2ポイント程度低い結果となった。 ○文章中の修飾と被修飾との関係、接続語の役割についての設問では、県や市の結果とほぼ同じ平均正答率だった。	・漢字の読み書きについてはドリルを活用して繰り返し学習を行わせる。また、漢字テストの際には合格点を設けて取り組ませ、着実な力にしていく。 ・文章を書く際には、既習の漢字を適切に使うことができるよう継続して指導していく。 ・国語はもちろん他教科の学習においても各種辞典を活用し、使い方の習熟を図る。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.1	78.6	77.7
	量と測定	26.5	36.3	35.7
	図形	67.2	73.3	72.1
	数量関係	56.2	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	50.6	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	59.2	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	65.4	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

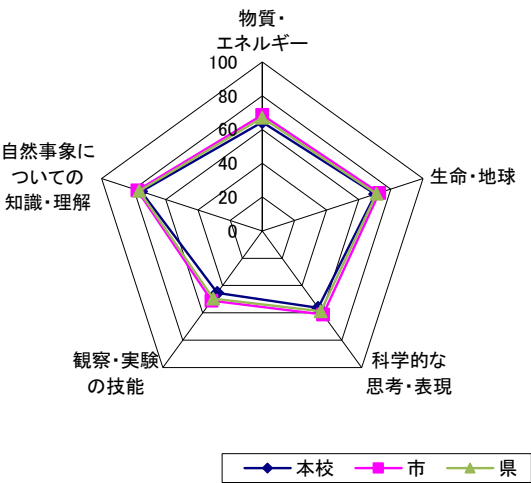
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●領域の平均正答率は77.1%で、県や市の平均より1ポイント程度低い結果となった。 ●基本的な乗法の計算問題で県や市の平均より10ポイント程度低いものがあった。 ○四捨五入・帯分数・問題場面を図で表すことについての設問では、県や市の平均より高い結果だった。	・計算問題の解き方を指導するときに、機械的に計算をさせるだけでなく、小数の仕組みや式の意味に触れるなど、より丁寧に扱っていくことで理解を深めさせる。 ・朝の学習の時間や家庭学習の時間にドリルを活用して、繰り返し問題練習を行わせ、定着を図る。
量と測定	●領域の平均正答率は26.5%で、県や市の平均より10ポイント程度低い結果となった。 ●単位量の考え方や、実際に使っているもののおよその面積を推測する設問では県や市の平均を4～14ポイント下回った。	・算数の学習が日常生活に役立っている場면을教えたり、身の回りにあるものの面積を、実際に測定する活動を意図的に行う等、算数的活動を多く取り入れ、数の感覚や学習したことの意義を実感させていく。
図形	●領域の平均正答率は67.2%で、県や市の平均より5ポイント程度低い結果となった。 ●180°より大きな角の求め方、展開図についての設問では、県や市の平均より6～13ポイント下回った。	・具体物や視聴覚教材を活用して、角の大きさは「回転の大きさ」であることや、展開図のある面が他の面とどのような位置関係にあるかをしっかり理解させる。また、分度器を用いて角の大きさを測定したり、必要な大きさの角を作ったり、実際に展開図を書いたりすることを繰り返し体験させ、実感を伴った理解につなげていく。
数量関係	●領域の平均正答率は56.2%で、県や市の平均より11ポイント程度低い結果となった。 ●4つの領域の中で1番低い正答率であった。	・授業の中で算数の言葉を用いて考えを伝えたり、自分の言葉で説明したりする機会を多く取り入れていく。それにより、計算のきまりや変わり方の規則性を使って、一般化して考える力を向上させていく。 ・問題用紙の後方にあったことや、無回答が多く見られたことから、児童が最後までじっくり考えて問題を解ききれなかったことも考えられる。複数の問題を解くときの問題への取り組み方の指導を行い、効率的に解決していけるようにする。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	64.4	68.6	67.0
	生命・地球	70.3	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	56.3	61.2	58.8
	観察・実験の技能	45.3	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	75.4	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●領域の平均正答率は64.4%で、県や市の平均より2～4ポイント程度低い結果となった。 ○空気・水・金属の性質についての設問では、県や市の平均より2～6ポイント程度高い結果となった。 ●空気・水・金属の性質を踏まえて実験や現象の理由、熱伝導の仕方について考える問題は特に正答率が低かった。	・物質がもっている性質や特徴が、どのように生活に生かされているのか、起こる現象にどのような影響を与えるのかを考える力を向上させていく必要がある。視聴覚教材を活用して身近に目にする場面を確認し、どうしてそうなるのかを考えたり、単元のまとめとして提示される発展的な実験や現象と、教科書で学習した基本的な事柄との関連や共通点を見出したりする学習を意図的に取り入れ、生活と結び付けて考える力をつけさせていく。
生命・地球	●領域の平均正答率は70.3%で、県や市の平均より1～2ポイント程度低い結果となった。 ○ヒトの体の動き、特に関節の働きに関すること、季節による動植物の生活の様子に関する設問では、6～9ポイント市や県の正答率を上回る結果となった。 ●月と星についての設問では、観察のポイントを理解することや方位磁針の使い方に関することに課題が残る結果となった。	・観察のポイントや必要な道具・器具の使い方を丁寧に指導し、全員に体験させることで定着を図っていく。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学びの基礎力

●「家の人と将来のことについて話すことがある」や「自分はクラスの人の役に立っている」、「自分は勉強が良くできる方だと思う」、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」という設問についての肯定的回答は県や市のもので下回っていたり、半数前後だったりと芳しくなかった。自ら学ぶ力や学習計画力、自己肯定感の向上などが課題である。得意な学習で活躍する体験の場や称賛の場、希望をもって進むために必要な声掛けなど意図的な教師のかかわりを行っていく。

社会的実践力

・「授業で自分の意見を文章にまとめて書くことは難しい」という設問についての肯定的回答の割合は、県や市を7～11ポイントと大きく上回ったのに対し、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という設問については県や市の平均と同程度だった。多様な表現方法で自分の考えを伝える力を伸ばしていくため、表現の仕方をあえて限定したり、個人に選択させたりする。表現することへの抵抗を軽減させ、人前で話すことにも積極的に取り組めるようにしていく。

学級力

○「友達との話合いで話や意見を最後まで聞くことができる。」や「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の設問についての肯定的回答は県や市を上回っている。学級への所属意識や役割への責任感や使命感の高さが感じられる。また、友達との良い関係を学習に生かし気持ちよく進めていこうという意欲も感じられる。これらのことを下地に、わからない問題があったときの学び合い活動なげていける支援を行っていく。

家庭学習力

○「家で、学校の宿題をしている」という設問に対する肯定的回答では、1ポイント程度ではあるが、県や市の平均を上回った。やるべきことを意識し、家庭学習に取り組もうという力が育っている。引き続き意欲の向上につながる家庭学習の課題を提示していく。

●計画を立てて学習を行うことや授業の予習・復習をすること、課題を自分で考えること等の設問についての肯定的回答は、県や市の平均より下回った。学習を自発的に行うことや必要な内容を選ぶこと等、自主的に学習に取り組む力にはまだ課題が残る。計画的に、時間を決めて等と合わせ、自主学習やテストの復習を指導するときに学習方法を指導していく。

学習方略

○算数の問題を解くときに、図・表・グラフなどを使って考えるようにしている」という設問についての肯定的回答は県や市と同じか少し上回る結果となった。授業の中でいろいろな解き方に触れたり、それぞれの良さを触れたりしていく中で身に一日からであると考えられる。授業の中で友達と意見を交換し合う等、多様な考え方や方法に触れる機会を意図的に設けていく。

●学習を進めているときに疑問点が出てきたら自分で調べてみる、学習を生活へと広げて学んでいる等に関する設問の肯定的回答は県や市のもので下回っている。授業で発展的なものを扱うときに、意図的に身の回りで生かされている事象や現象について触れ、関心を高めていく。

宇都宮市立御幸小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
わかる授業づくり	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れる。 ・習熟度別学習・T・Tの活用 ・算数科における計算技能の向上を図るための授業開始後のストレッチ、底上げを図るためのレベルアップ教室の実施 ・家庭学習の充実	・数と計算において4年生では、たし算、ひき算の問題の正答率が県平均より良かった。しかし、5年生では基本的な乗法の計算問題で県平均より低い正答率のものが見られた。 ・家庭学習に関する設問での肯定的回答が4年生では低く、5年生ではやや平均より高かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語の書くこと・読むことの設問で、誤答や無回答が目立った。 ・算数において数学的な考え方の正答率が低い。また、4、5年生で低い正答率の領域が見られた。 ・家庭学習の習慣化が図られていない。	・読解力をつける。 ・書くことを授業の中に位置付ける。 ・家庭学習の習慣化	・読書の推進 図書室の活用・週末読書の推進・朝の読書 ・読解ドリルの活用(朝の学習の時間) 新しい文章に触れ、問題に答えられるようにする。 ・「書く」活動を取り入れる。 ・字数を決めて書かせる、算数の解き方を文章で説明させる、振り返りを文章で書かせるなど ・家庭学習について、具体的な指導をし、家庭にも協力を呼びかける。